



森の京都

# くらしを支えた

その歴史を

振り返る

# 蚕糸業展



牛耕(昭和初期)、ハンドトラクター(昭和30年代)による桑園耕うん作業



再びくらしを支える蚕糸業に



室内蚕箔飼育(明治~昭和初期)



セリシン配合の化粧品

2017年11月11日[土] - 19日[日]

10:00~16:00 入場券 大人300円、高校生以下無料

グンゼ博物苑 集蔵 〒623-0011 京都府綾部市青野町「あやべグンゼスクエア」内

※グンゼ博物苑(創業蔵、現代蔵、未来蔵)は、期間中休まず営業致します。

主催 「くらしを支えた蚕糸業展」実行委員会

共催 NPO法人 北近畿みらい、森の京都DMO、京都府蚕糸同友会、NPO法人 綾部ベンチャー・ものづくりの会

後援 京都府、亀岡市、南丹市、京丹波町、嵯峨山市、綾部市、グンゼ㈱、京都工芸繊維大学、綾部商工会議所、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、産経新聞社、京都新聞、あやべ市民新聞社、南丹日日新聞社、北近畿経済新聞社、JR西日本福知山支社、京都北部信用金庫、京都銀行



# 日本の蚕糸業を支えた歴史が今ここに

message

## 「くらしを支えた蚕糸業展」に寄せて

京都府知事  
山田 啓二

京都での蚕糸業は、長らく生業として人々の生活と一体となって暮らしを支え、地域の歴史と生活・文化を彩るとともに、京の都の産業・文化や、丹後ちりめん産業を支えてきました。

長年にわたり民具等を収集・保存されてきた京都府蚕糸同友会をはじめ、ご尽力いただいた多くの方々の思いのこもった今回の取組を通じて、子どもたちからご高齢の方まで、ご来場の皆様の心に響き、地域文化の継承・発展、さらには地域の交流拡大につながることを祈念します。

## 感謝と再生への想いをこめて

「くらしを支えた蚕糸業展」実行委員会  
委員長  
四方 八洲男

蚕神社があった。蚕まつりがあった。蚕糸業は長きにわたって私たちのくらしの真ん中にあった。蚕は、だからお蚕さんとよばれていた。

しかし、海外からの安い繭糸の流入、着物離れなどで残念ながら養蚕業は後退してきた。

しかし、お蚕さんが紡ぐ繭の光沢と機能は不滅だ。医療をはじめ新しい用途が生みだされつつある。

何千年にもわたって人間社会がお蚕さんと共存してきた歴史をふり返り、明日につなげたい。感謝と再生への想いをこめて。

## 展示内容

養蚕農家が実際に使っていた道具や民具など約50点を展示  
栽桑／蚕種／養蚕／近代養蚕／繭検定／製糸／一般  
ボランティアガイドによる解説

実際の作業の様子を写真パネルなどで紹介  
桑づくり／普通蚕種の製造／養蚕／繭検定／製糸  
繭クラフト製作コーナー

## 講演会

入場無料

テーマ 再びくらしを支える蚕糸業に向かって

講師 森 肇氏 農学博士  
京都工業繊維大学教授・理事、副学長

日時 2017年11月11日[土]  
11:00～12:00

会場 グンゼ本館講堂（象崎のすぐ近く）



国内生産のシルクは、品質では勝るものの価格面で中国などと太刀打ちすることができず、養蚕業全体が日本から消え去ろうとしています。私は、養蚕業を衣料から医療へ用途拡大することを目指して、繭の糸と絹の両方を使う新たな産業創出を目指しています。カイコに遺伝子組換えを行うことで、特殊な糸を吐くカイコを作り出し、その糸は化粧品やiPS細胞を培養するための材料として、また絹は有用タンパク質を作るために利用できます。



## グンゼ博物苑 集蔵

〒623-0011 京都府綾部市青野町「あやべグンゼスクエア」内

電車で：JR山陰本線 綾部駅より徒歩10分  
車で：舞鶴釜谷自動車道 綾部ICより約6分  
(駐車場 60台)

問い合わせ

「くらしを支えた蚕糸業展」実行委員会事務局

〒623-0021 京都府綾部市本町2丁目29-1 NPO法人 北近畿みらい内

TEL.0773-40-2211 FAX.0773-40-2244